

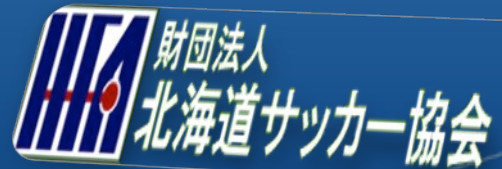
北海道トレセンキャンプ U-16

(国体強化中期合宿) 2011年6月18日・19日

【報告者】 大西真司

場 所 札幌東雁来公園グランド

宿泊場所 北海道トレーニングセンターハウス(夢きたれ)



ゲームの流れ をつくる

1. キャンプの概要

4月に実施した前期キャンプではU-15トレセンとU-16トレセン2チームによるゲームを通じ、個人個人の力量の見極めやポジション適性の確認などを行ったが、今回の合宿においてはU-16より上のカテゴリーのチームとの試合を通じ、同様に選手1人1人を見極めを行うのを目的としたものであった。また、前回の合宿ではケガによりプレーできなかった選手や高校生としてスタートしたばかりでコンディションの調整不足の選手もいたので、それらの選手のプレーをもう一度見てみたいという目的もあった。

スケジュール

18日PM トレーニング「ゲームの流れを作る」
ビルドアップ
→ポゼッション
→崩し
→突破
→フィニッシュ

練習マッチ 40分×2本
→対戦相手 札幌大学

19日AM 練習マッチ 35分×2本
→対戦相手 コンサドーレ札幌U-18

紅白ゲーム
→7vs7+GK 30分×1本

今合宿参加選手内訳

コンサドーレ札幌ユース：10名
札幌ブロック：3名 道南ブロック：2名
道東ブロック：2名 道北ブロック：1名
合計18名

北海道での一貫指導をブロックトレセンから！！
日本代表とオリンピック代表を2015年までに輩出する！！
和歌山国体(2015)までには優勝を！！

2. ゲームの内容から

18日のゲームは大学生を相手にする試合でしたが、前半のメンバーが札幌大学内における3番手くらいのチームで、後半は1.5番手くらいのチームで構成されていたようです。U-16チームは今回18名（GK2名+DF7名+MF6名+FW3名）の参加予定でしたが、ケガ1名・学校事情で遅れて参加2名、さらに最近の自チームでのポジションの変更等でMFの不足などがあり、前後半をやりくりしながらの選手起用をせざるを得なければならぬ状況でした。

試合直前での確認しかできなかったためか、ゲームの流れ作りに関しては大学生相手の中ではほとんど意識できませんでした。ビルドアップにおけるポジショニングも守備から攻撃への切り替えが遅いのと勇氣を持って高い位置を保てなかったため、相手コート内でのプレー時間が少なすぎたと思います。数少ない攻撃場面においても後ろからの効果的なかわりが薄く、個人のドリブルに頼る単発的なものとなりました。さらに、追い打ちをかけるように後半の大学生のレベルではスピード等でも対応できずにただ失点を重ねるだけでどんどん深みにはまる様子から、リバウンドメンタリティーにおける課題なども浮き彫りになり、得るものは逆にかつたと思います。



19日のゲームにおいても、U-16を中心とする選手とコンサドーレ札幌U-18のトップチームに関わる選手が多い中での対戦では、力関係の差が想像以上に大きかったように思います。選手の感想にも相手の選手に対して「うますぎて何もできなかった」という感想がもれていましたが、本音とも思われました。

2日間のゲームを通じて共通する課題は、個人の「守備」という点が浮き彫りとなったと思います。第1DFのチャレンジが相手選手に対するプレッシャーとなっていないため、第2DFのカバーもタイミングも取れずに守備が破たんした状態で失点が続きました。それと、守備場面でも攻撃場面でも選手間のコミュニケーション不足は多かつたように思います。どちらの場面においても、効果的な関わりがほとんど見られなかったのはこうした原因も見逃せないのではと思います。



3. 北海道トレセンの方向性

- ① 今回もそうですが北海道トレセンの目標の節目として国体での成果などに注目を浴びるのですが、4月の前期合宿そして今回6月の中期合宿の選手の様子を見ると、各年代で積み重ねるトレセンの内容をそれぞれの担当しているカテゴリーの指導者だけで検証するのではなく、北海道で言う3つのカテゴリー（U-12・14・16）の縦のつながりを持った中での検証が必要に思います。幸いにして、今回はスタッフにU-12担当の尾見先生を加え、選手の動き一つ一つに対して育成段階でのつながりを考えることができているのは、とてもよかったですと思います。
- ② 選手の様子から、複数のポジションをこなせる力が不足していると思います。もちろんこの年代ではポジションの専門性が問われ始めるのは言うまでもないですが、サッカーの原理原則や個人戦術の理解を深めていけば、特殊なチーム戦術を考えない限りポジションへのこだわりによる選手起用での問題は多少なりとも緩和されるのではないかと思います。



- ③ 「メンタルフィットネス」・「リバウンドメンタリティー」・「タフでたくましい選手」などいわゆる根性論や精神論的な話題も将来「代表選手」の輩出を目指すのであれば真剣に取り組まなければならない課題でもあるように思います。これは「オン・ザ・ピッチ」におけるトレーニングによる追い込みだけでは解決しない部分だと思えます。正直なところ、今回の合宿に参加した選手の口からは「自分のチームは技術10%+走り90%だから」という声も聞かれましたが、日常のチームでのトレーニングが育成の中心であることを考えると、メンタル的な要素の向上は「オフ・ザ・ピッチ」を含めた工夫を大切に、トレセンと連絡を密にしていかなければならないと思えます。

今後に向けて

- ① 7月8日～10日、国体少年選考会となるHOKKAIDOトレセンU-16に北海道トレセンチームとして参加、各ブロック代表とのリーグ戦を行う。
- ② 現段階では国体の本大会に臨む16名の選手のポジションバランスや選手間の合性などを考慮した人数配置を検討中
- ③ 他ブロックから再度北海道トレセンの選手との差し替えができる逸材の参加に期待しています。

